

#### 卒業の準備 その4

「禍福は糾える縄の如し」という諺がある。諺より、故事成語といったほうが良い。

災いと幸福は表裏一体で、まるでより合わせた縄のようにかわるがわるやってくるものだ。不幸だと思ったことが幸福に転じたり、幸福だと思っていたことが不幸に転じたりする。

成功も失敗も縄のように表裏をなして、めまぐるしく変化するものだということのたとえ。

『史記・南越列伝』には「禍に因りて福を為す。成敗の転ずるは、たとえば糾える縄の如し」とあり、『漢書』には「それ禍と福とは、何ぞ糾える縄に異ならん」とある。

「糾える」は文語動詞「あぎなふ」の命令形+完了を表す、文語助動詞「り」の連体形からで、「あぎなふ(糾う)」は「糸をより合わせる」「縄をなう」を意味する。

【出典】『史記』『漢書』

良いことがあれば悪いことがある。悪いことがあればよいこともやってくる。決して良いことばかりではなく、同じように悪いことばかりではない。

翻って何をよいこととするのか、何を悪いこととするのかの判断も相対的なことである。

生徒一人一人を見ていると本当にそうだと思う。3年間という月日の中でも、いろいろな災いと幸福が次々に訪れたことであろう。

だから、卒業できることは本当に幸いなのだ。これから先も、きっと同じことだ。

3年間の指導の中で、一番大切なことは、卒業することだと心から思っている。いろいろな出来事で卒業できないと、同じ努力をしても、もっと努力が必要とされてしまう。36年間の教師生活の中で、一番身に着けた格言だ。

卒業は、また、新しいことが始まることを意味する。終わりは始まりで、始まりは終わりである。

私の退職も終わりは始まりであるのだろう。何かを始めることができれば、それは私にとって大きな幸福となる。

卒業は別れを伴い、涙もろいお爺さんは、泣かないで過ごすことが難しい。しかし、また会えることはわかっている。涙は流さないようにしよう。

